

## 見えない壁

中 二

みなさんは障害者と聞いて、どのようなイメージや感情が湧いてきますか。「自分たちと違う」なんて思っていますか。見かけたときに興味をもつてじろじろと見ていませんか。

私も幼い頃は、そのように偏見をもって過ごしてきました。しかし、現在の私の考えは違います。私は障害の有無に関係なく、誰もが同じ存在だと思えます。

「障害のある人たちは、私たちとなんら変わるころはない。」そう思ったきっかけは、私が通っていた太鼓教室です。私はその教室の演奏を聞いて、かっこいいと思い、演奏している人たちが障害者と知らずに通い始めました。教室には何人か障害のある人たちが来ていました。初めて教室に行ったのは、小学校一年生の頃です。いつもは誰にでも気軽に話しかけていたのに、とてもどきどきしてしまい、目を合わせて話すこともできませんでした。みんなと違うと思ってしまい、見えな

い壁があるようでした。一緒に通ってくれた母は、目を合わせて、いつも楽しそうに話をしていたうらやましく思いました。しかし、私は一步が踏み出せずにいました。太鼓をたたくのはとても楽しいのに、心の中がもやもやしていました。

ある日のことです。勇気を出して自分から話しかけてみようとしたとき、同じ年くらいのAさんが話しかけてきました。初めは、どきどきしながら話していましたが、話をしていくと、だんだんと楽しく話せるようになったのです。話をするときのAさんの笑顔が大好きになり、Aさんと友達になりました。そして、Aさんのおかげで教室の全員と仲よくなれました。すると、教室がとても明るく見えてきました。

その時に、私は「みんな同じだ」と初めて気付くことができたのです。そして、教室の一人一人が誰よりも秀でていることがたくさんあることを知りました。

友達のAさんは、誰よりも明るい友達です。また、失敗したときになぐさめてくれたのもAさんでした。私は失敗すると落ち込んでしまいます。いつも明るく前向きなAさんはすごいなと思います。

した。

また、Aさんのお母さんと妹は一緒に太鼓を練習してAさんのできないことをサポートし、お父さんとお兄さんは発表会のときに来て、重い太鼓を運んでくれます。Aさんの家族全員が、太鼓の発表会を盛り上げてくれます。

Aさん以外にもたくさんすばらしい仲間がいます。Bさんは大きい声を出すことや自分の気持ちを伝えることが苦手です。しかし、誰よりも先に挨拶をしてくれます。Bさんの挨拶で、私は元氣とやる気が出ます。そして私は、Bさんのように誰よりも先に挨拶できるようになりたいと思いました。

また、知的障害があるCさんは、誰よりも覚えるのが早いです。電車が大好きで驚くほど詳しく、私の知らない電車のことを教えてくれます。太鼓も同じで、一度聞いただけですらすらとたたくことができず、私は何度も聞いて練習し、やっと覚えるのに、Cさんの記憶力のすごさに驚かされます。

Dさんは足が不自由で車いすに乗っています。教室にはエレベーターがありません。毎回、車い

すから降りて二階までグローブをはめ、手の力だけで上っていくのです。重たい車いすは、Aさんやお母さんたちが協力を運びます。私はDさんのように、好きなことにこんなに熱心になれるだろうか。Dさんには、いつも全力で頑張る力をもらいました。力強いDさんの太鼓はともかくこよかつたです。

このように私の太鼓の仲間は、私にはない、すばらしい力をたくさんもっていました。見た目だけで人を判断した自分を恥ずかしく思いました。

今、私はこのようなすばらしい仲間と気軽に話をしたり、笑い合ったりしています。そして六年間の太鼓教室は貴重で充実した体験となりました。私がこの体験で学んだことは「障害のある人と私たちとの差は全くない」ということです。確かにできないことはあります。しかし、周りの人たちと支え合えば何も問題はありません。

では、障害の実態とは何でしょうか。それは偏見や差別などの見えない壁だと思えます。それをなくせば、障害のある人たちと私たちの差はなくなりません。気軽に会話をし、笑い合えます。自分らしく生きられます。そんな世界を私は創りた

い  
です。

私はバスケットボール部に所属しています。練習するときに着ているTシャツに、こんな言葉が書いてあります。「ONE FOR ALL. ALL FOR ONE.」一人は皆のために、皆は一人のために「という意味があります。この言葉のように一人ではできないことがたくさんあります。しかし、世界全体で支え合うことによって、できないことはなくなります。見えない壁に打ち勝ち、平等な世界を創るためにはまだ時間がかかります。そんな世界を創るために私も力になりたいです。